

令和 3 年度長久手市障がい者相談支援事業 主要事業の報告

※★は重点項目の関連事業

1 障害者相談支援

一般的な相談支援に加え、義務教育終了者、中高大学生・専門学校生向け啓発及び相談対応にも注力した。

【実績（詳細は別紙 1 のとおり）】

相談回数 5, 258 件 相談人数 751 人

2 基幹相談支援

総合的・専門的な相談支援のほかに、主に以下の事業を実施する。

(1) 個別訪問調査 ★ (別紙 2 のとおり)

(2) 就労支援コーディネート事業 ★

ア 中高生（障がいのある方）への就労体験機会の創出 (別紙 3 参照)

イ 事業所説明会の実施

2 月 5 日に実施予定だったが、新型コロナウイルスの影響により令和 4 年 6 月に延期予定。

ウ 社会資源情報の動画作成

事業所選択の際にイメージをより持ちやすくするため、市内福祉サービス事業所（居宅介護事業所を除く）の PR 動画作成を企画。市内全事業所の約半数である 11 事業所が PR 動画を作成。令和 4 年度は作成できなかった事業所に向け、作成補助の支援を検討することが必要。

(3) 障がい者自立支援協議会の運営支援

プロジェクトチーム（一部）の事務局として運営支援を行うほか、障がい福祉関係者連絡会の企画・運営を実施。

第 1 回福祉関係者連絡会 7 月 15 日実施（14 機関、20 名参加）。

第 2 回福祉関係者連絡会は 1 月 26 日実施予定だったが、新型コロナウイルスの影響により令和 4 年 5 月に延期予定。

(4) 権利擁護・虐待の防止に関する対応、普及啓発

虐待対応件数 2 件

市内に全戸配布される社会福祉協議会広報誌 10 月号へ権利擁護の啓発記事を掲載。

(5) 新型コロナウイルス感染症対策に関する取組

事前情報を提供することで、障がいのある方に対するワクチン接種が混乱なく進むよう、ワクチン接種動画２種類（個別接種、集団接種）を作成。接種困難者への直接支援を４名実施。

(6) その他

ア 相談支援連絡会

市内相談支援事業所を対象に相談支援連絡会を月１回実施。ケースへの専門的な指導助言等を行う。相談支援専門員初任者研修２名、現任研修１名の受入れを行い、地域の相談支援体制強化及び人材育成を図った。

イ 避難行動要支援者名簿への登録支援 ★

防災プロジェクトチームでの取組、市が見直しを行っている避難行動要支援者制度との整合を図るため、次年度から本格的に取り組む。

ウ 学校等との連携

近隣大学８校を訪問し、事業の周知活動等を実施。

エ 当事者活動の支援

精神障がいの当事者活動として、１１月２３日に交流会を企画、１５名が参加。参加者から当事者活動の活発化を望む声があり、今後は当事者自身が企画側として関われるよう展開予定。

オ 学校・企業等との情報交換・助言

(ア) 長久手市役所職員研修にて障がい者差別解消に関する講話を実施。

(イ) 民生委員児童委員協議会障害部会にて講話を実施。

3 その他

(1) 基幹相談支援センターのホームページの再編

事業所PR動画をホームページに組み込み、市内の社会資源情報を視覚的な方法によりわかりやすく情報が届くよう再編。

相談月年報

令和3年4月～令和4年3月 [開所日数：0日，閉所日数：0日] [相談実人数：751人]

＜相談方法＞		回数	人数	＜本人との関係＞		回数	人数	＜相談内容＞		件数	人数	＜関連機関連絡＞		件数	人数
訪問		1028	397	家族		1492	488	支援内容		5242	1234	福祉事務所			
来所相談		595	413	本人		1862	489	福祉サービスの利用等に関する支援		3386	600	保健担当課			
同行		199	84	福祉事務所		60	29	障害や症状の理解に関する支援		81	59	福祉担当課			
電話相談		2573	517	福祉担当課		79	42	健康・医療に関する支援		466	115	医療機関			
電子メール		181	68	保健担当課		19	12	不安の解消・情緒安定に関する支援		253	72	他支援センター			
個別支援会議		49	35	民生委員		2	2	保育・教育に関する支援		150	70	相談協力員			
関係機関		415	189	事業所		1263	375	家族関係・人間関係に関する支援		183	56	民生委員			
その他		118	60	その他		481	180	家計・経済に関する支援		111	39	その他			
合 計		5,258	1,763	合 計		5,258	1,615	生活技術に関する支援		35	23				
＜世帯状況＞		回数	人数	＜本人状況＞		回数	人数	就労に関する支援		83	25				
家族と同居				健康				社会参加・余暇活動に関する支援		34	12				
障害者世帯				虚弱				権利擁護に関する支援		53	24				
一人暮らし				寝たきり				その他の支援		208	53				
施設入所				その他				その他		199	86				
病院入院				持病あり				介護に関する相談		7	4				
その他				(未入力)		5258	751	介護に関する相談		7	4				
独居								介護機器に関する相談		1	1				
(未入力)		5258	751					介護機器に関する相談		1	1				
合 計		5,258	751	合 計		5,258	751	住宅改修に関する相談				合 計		0	0
＜相談状況＞		回数	人数	＜相談外活動＞		回数	時間	住宅改修に関する相談				＜申請代行＞		件数	人数
相談	新規相談	186	186					諸制度に関する相談		1	1	サービス等利用計画案			
	支援内容	5,072	700					諸制度に関する相談		1	1	サービス等利用計画			
	契約前新規							年金・保険に関する相談		29	13	事業所との利用契約			
	契約前支援							年金・保険に関する相談		29	13	ライフライン関係			
合 計		5,258	886					財産に関する相談				不動産			
性別	男性	3,074	459					状況把握		103	43	ガス			
	女性	2,184	292					状況把握		103	43	電気			
合 計		5,258	751					連絡調整		27	12	水道			
時間	開所	時間内						連絡調整		27	12	電話			
	開所	時間外						カンファレンス		10	9	その他			
	閉所	時間内						カンファレンス		10	9	手帳関係			
	閉所	時間外						カンファレンス		1	1	その他			
合 計		0	0	合 計		0	0:00	苦情		1	1				
								苦情		1	1				
								就業・雇用に関する相談		3	2				
								就職先に関する相談		2	1				
								訓練に関する相談							
								職場環境に関する相談							
								雇用に関する相談							
								離職に関する相談							
								定着に関する相談							
								その他		1	1				
								精神保健		32	16				
								老人精神保健		1	1				
								社会復帰							
								アルコール							
								薬物							
								ギャンブル							
								思春期							
								心の健康づくり		5	3				
								摂食障害							
								てんかん							
								その他		26	12				
								個別訪問調査		119	84				
								個別訪問調査		119	84				
合 計		0	0	合 計		0	0:00	合 計		5,575	1,420	合 計		0	0

令和3年度個別訪問調査 総括

1. 内容

療育手帳・精神障害者保健福祉手帳を所持しているが、障害福祉サービス及び介護保険サービスを利用されておらず、高齢者実態把握調査の対象ではない人の現状について調査を行い、生活で困っている方や問題が発生している方を早期に発見し、問題が大きくなる前に対応することを目的とし、対象者宅への訪問調査を実施する。訪問頻度は1～2年に1回で、生活状況の確認をさせていただき、その人に合う福祉サービスの情報（働く場所・ヘルパー・サロン・障害年金等）を提供する。

2. 対象者

以下いずれにも該当する方

- ① 療育手帳・精神障害者保健福祉手帳を所持する方
- ② 障害福祉サービスの利用がない方
- ③ 地域生活支援事業の内、移動支援事業、日中一時支援事業、訪問入浴サービス事業、地域活動支援事業のいずれの利用もない方
- ④ 介護保険サービスの利用がない方
- ⑤ 高齢者実態把握調査の対象者ではない方
- ⑥ その他調査が必要な方

3. 実施方法

- ① 事前に市又は長久手市障がい者基幹相談支援センターから対象者へ訪問について案内・アンケートを送付する。
- ② 対象者全員の自宅等を訪問しアンケートを回収しながら、聞き取り調査を実施する。
- ③ 調査結果により、今後の支援について協議する。

4. 従事者

日頃相談支援業務に従事している者

5. 令和3年度実施結果

第1期（7月）40代、60代以上 訪問：17件 電話等：7件、辞退等：2件

第2期（9月）30代、50代 訪問：8件 電話等：5件、辞退等：2件

第3期（11月）30代、50代 訪問：1件 電話等：7件

第4期（1月）10～20代 40代 訪問：12件 来所：1件 電話等：6件、辞退1件、転居1件

第5期（3月）10～20代、40代 訪問：3件 電話等：8件 辞退等：1件

振り返り会の開催（7/30、9/17、11/26、3/3、3/25）

	アンケート回収	アンケート未回収	計
第1期（7/2～7/29）40代、60以上	24	2	26
第2期（9/16～9/18）30代、50代	13	2	15
第3期（11/4～11/21）30代、50代	8	0	8
第4期（1/12～1/29）10～20代、40代	19	2	21
第5期（3/3～3/19）10～20代、40代	11	1	12
市役所窓口（通年）全年代	42		42
計	117	7	124

6. 調査から見た傾向

① 年齢・性別

- ・10代：0人 20代：4名 30代：5名 40代：30名 50代：15名 60代：16名 70代：5名実施。
- ※10～20代、30代は年に1回確認が必要な方のみの実施で人数は少ない。性別の差はほぼない。
- ・（市役所窓口対応）10代：4人 20代：12人 30代：11人 40代：6人 50代：9人

② 障害者手帳の等級

- ・40代～50代の精神2級の方の人数が多い。20代の精神3級の方の割合が高く、若い年代のうちに軽度でも手帳取得する傾向か。

③ 同居家族の状況

- ・対象者の年代が40代以上の割合が高かったため、配偶者と同居の数が多くなっている。

④ 生活の支援をしてくれる人

- ・対象者の年代が40代以上の割合が高かったため、配偶者の数が多い。
- ・20歳以下で支援者となっている人が1人いる。

⑤ 生活の支援をしてくれる人の年代

- ・配偶者が支援している割合が高いため、対象者と同年代の40代～50代が多い。

⑥ 生活の支援をしてくれる人の健康状態

- ・健康状態は良好の方が多いが、割合的には少ないが、障がいや病気のある方もいる。

⑦ 日中の生活について

- ・家にいる方が全体の60%以上の73人と多い傾向。
- ・40代で就労している方の割合が高い印象。

【家にいる理由】

- ・健康不安から外出や人との関わりを控えている方が大半となっている。
- ・コロナの影響で日中活動の場や仕事を失っている方がいる。
- ・配偶者の支援を受けられているため、不就労でも生活できている。

⑧ 通院状況

- ・ほとんどの方が定期的な通院ができている。

⑨ 服薬状況

- ・規則正しい服薬ができていても健康面の不安定さあり。医療以外とのつながりや支援が必要か。

⑩ 困りごと

- ・体調や金銭面で不安を感じている方が多い。
- ・本人が困っていないが家族は困っているケースがある。

⑪ 困った時の相談経験

- ・医療機関への相談が最も多い。受診の時相談と思われるが、未解決の割合が高くなっている。
- ・数は多くないが、基幹や社協に相談する方が増えた印象。

⑫ 食事

- ・自炊の方が多くなっている。

⑬ 相談相手

- ・相談相手は家族と主治医が大半を占めている。
- ・民生委員や地域の人は0人となっている。

【令和3年度中に福祉サービス等につながったケース】

- ・相談員が介入し、福祉サービス等へ11件つなぐことができた。

【ひきこもり状態】

- ・医療機関、家族以外とのつながりがいない方が21人いる。

1. 所感

- ① 約5人に1人が、社会（家族・医療以外）との繋がりが薄く、ひきこもりに近い状態で暮らしている。
- ② 調査員の訪問を拒否することはなく、福祉サービス等の情報も届けられているが、前回、前々回の訪問から生活状況に変化が見られない方が多い。
- ③ 40代、手帳を所持していても家族の支援を受けながら働き、上手に生活している方も多い。
- ④ 将来への不安を持っている。
- ⑤ 家族の支援だけに頼っている方が多い。

2. まとめ

- ・既存の社会資源への参加を拒否する対象者を、相談員のみで支えていくことは困難であるため、ボランティアや当事者等の協力を得ながら、ゆるやかに伴走支援する仕組みを整える必要がある。
- ・家族の支援だけに頼っている方が多いため、家族へのケアを検討していく必要がある。
- ・将来への不安については、その方の年代に合った情報を適切に提供することに努め、受けられる支援等を具体的に伝えることで、将来への備えやイメージができるよう支援していくことが必要。

令和3年度 就労支援コーディネート事業 報告

令和4年3月1日

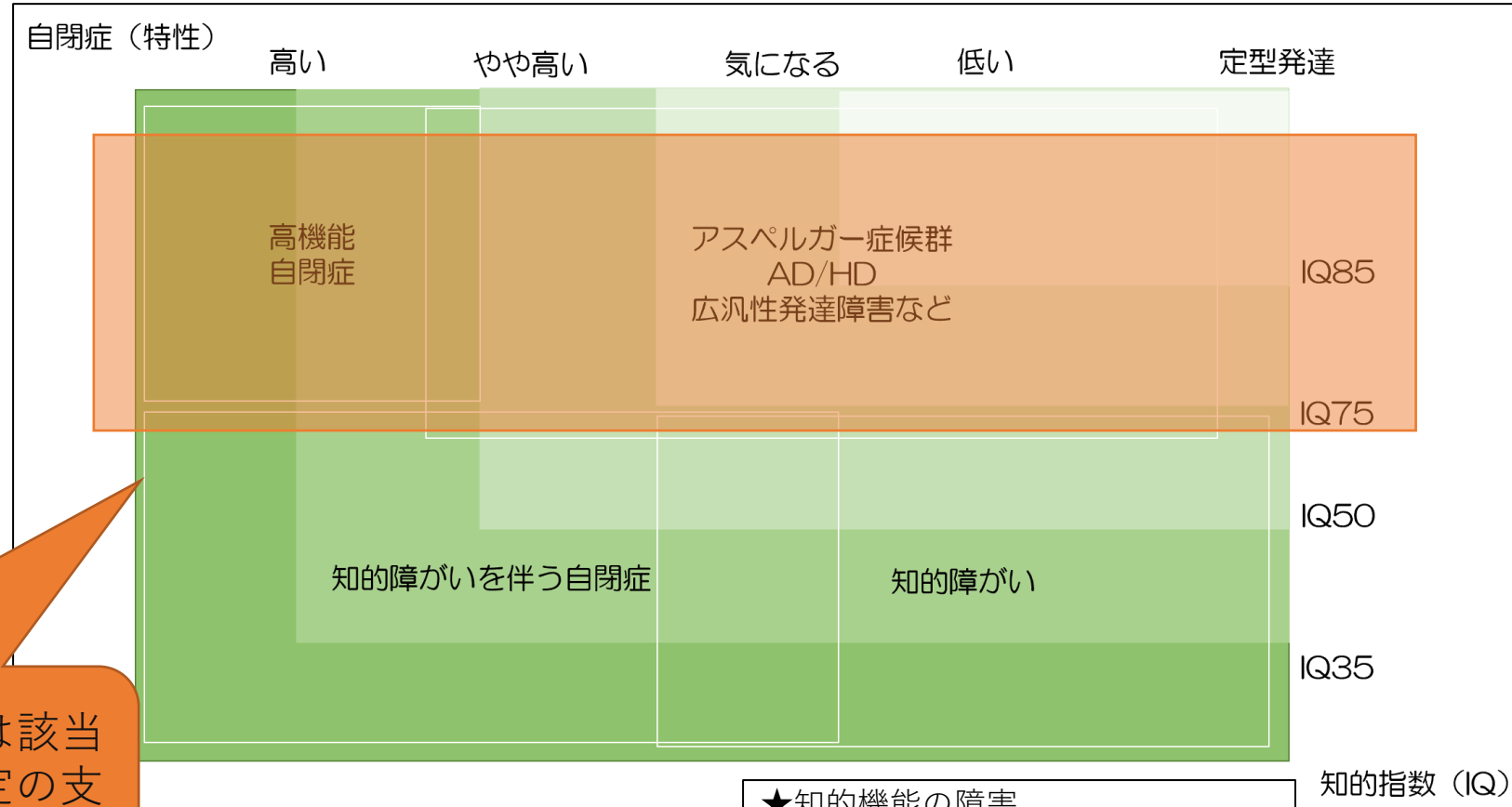
長久手市障がい者基幹相談支援センター

日程（実績）

日程	時間	内 容
9月18日（土）	14:00～16:00	オリエンテーション
10月16日（土）	14:00～16:00	プログラムⅠ“自分を知る” ①将来像をイメージ②自己分析してみよう③働く条件は何だろう
12月4日（土）	14:00～16:00	プログラムⅡ“会社を知る” ①いろいろな仕事があるので調べてみよう
12月23日（木）	13:30～17:00	プログラムⅡ“会社を知る” ②どんな働き方があるか見たり、やったりしてみよう 見学・体験ツアー
1月22日（土）	14:00～16:00	プログラムⅢ“就職活動を知る” ①就職先を決めてみる ②困ったときにどうしたらいいかを知る

参加者の状況

高校2年生	2名
高校1年生	1名
中学3年生	1名
中学2年生	2名



主にIQが75以下の知的障害には該当はしなくても、IQ75以上で一定の支援が必要な方を対象に実施。

★知的機能の障害

重度（A判定・IQ35以下）

中度（B判定・IQ36～50）

軽度（C判定・IQ51～75）に区分

事業所

コメント

ジョブトレ 谷口氏 時野氏

参加者の様子	・発表の機会が多く、同世代の子ども同士の様子を見て上手くなっていた。 ・集団の中で自分のペースで取り組んでいたが、全体を見渡せることができるようになった。 ・子どもの普段見れない様子がみれた。事業所での取り組みにも活かせる。 ・自分の適性や性格を理解して判断していた。 ・学校でも取り組んでいたこともあるが内容を深める機会になる。 ・見学先が1日に2か所なこともあり、本人たちの理解力、集中力に難しさがあった。
プログラムについて	・対象者としては目的にあっていて感じる。 ・外部の方と子どもが関わる様子が見れた。 ・学校で取り組んでいる適性検査を参考資料にできる。 ・子どもたちにとっても頭が痛いことではあったが考える機会になった。 ・時期的なこと。夏休みの方が時間に余裕がある。学校によってテスト期間が違うのでスケジュールが難しい。 ・会社訪問については時間や内容量が事業所の職員向けだった。また、手帳所持者（障がい者雇用）の印象が強かった。
その他	・今回はスタッフの協力体制がとれた。事業所によっては職員派遣が難しいかもしれない。 ・送迎が課題。 ・本事業として、事業所職員のフォローが必要か。職員が同行していたが、職員が同行しない場合はどの範囲まで効果が期待できたか。参加して感想としては、同行していた方が効果がある。事業所でも振り返ることができる。

総合的な評価と考察

	評価	考 察
オリエンテーション	○	動機づけの時間は必要だった。今後、複数の事業所が参加するとしても顔の見える関係を作ってからプログラムに入りたい。
プログラムⅠ	△	ワークシートの量と取り組む時間がマッチしなかった。理由としては、参加者が自分自身をイメージする材料が足りなかったこと。もう一つプログラムが必要かもしれない。
プログラムⅡ①	○	わかりやすい作業で取り組みも良かった。ここでのワークで新しい仕事を知る機会となる。
プログラムⅡ②	△	日立チャネルソリューションズ(株)、日立ゆうあんどあい(株)の会社見学。2か所の会社見学を同時に行うことで参加者の理解が深まらなかった。
プログラムⅢ	○	これまでのプログラムを通じて本人が納得して将来を選択する機会を持てた。各自、ただ働きたいだけでなく理由を言えるところまで持って行けたことはよかった。

今後に向けて

- 中学生と高校生でプログラムを分け、年齢やライフステージによりあった内容にする。
- 他者とのやりとりを通じて自分自身を知ることの苦手さや、一人暮らしの生活についてのイメージが弱かった部分をプログラムに追加して深める。（主に高校生）
- 見学先を多様にし、選択および推薦で本人の興味関心等に合わせて行き先が複数になるようにする。
- 将来的に事業所で実施していくことを想定しているため、今後も事業所の協力を前提に提案をしていく。